

指標名： 褥瘡発生率

背景

当病棟は整形外科領域にて大腿骨頸部骨折や変形性関節症、上肢骨折等で入院し手術を必要とする患者が多い。入院患者の中でも高齢者の割合が多い。そして、骨折による疼痛や、安静指示などの臥床に伴う筋力低下、元々の関節変形などによる関節可動域の制限がある。そのため、有効な体位変換を自ら行うことが難しく、褥瘡発生のリスクが高い。また、骨折や手術により出血し、急激な貧血やアルブミンの低下が発生する。栄養状態の低下は、さらに褥瘡発生の要因となる。また、高齢者の場合オムツを使用する割合が多く、失禁、失便や発汗での皮膚の湿潤も発生する。そして、摩擦や乾燥からのドライスキンもあることから褥瘡発生因子が多くある。加えて、周手術期であることから医療関連機器圧迫創傷(MDRPU)の発生リスクも高く、特に弾性ストッキング、弾性包帯、ギブス・シーネによる皮膚の圧迫が考えられる。これらのことから、患者個々への適切な看護介入を行うことで褥瘡発生の減少へつなげることができる。

データの定義

(分母)褥瘡発生数

(分子)整形外科入院患者数(骨関節外科・骨軟部腫瘍外科・手外科・上肢外傷外科)

2018年度のデータ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
褥瘡発生率:%	1.92	1.63	4.34	3.27	1.44	3.5	0	1.66	5.08	8.8	2.22	0.87
分母:整形外科入院患者数(骨関節外科・骨軟部腫瘍外科・手外科・上肢外傷外科)	52	61	69	61	69	57	64	60	59	57	45	114
分子:褥瘡発生数	1	1	3	2	1	2	0	1	3	5	1	1

参考データ

・2017年度(4月～3月:25件 発生率 3.36%)

評価

・2018年度目標値2.9%以下 ・2018年度(4月～3月:21件 発生率 2.73%) 褥瘡対策検討委員とグループ会を中心に、パームQでの体圧測定を実施したうえで体圧分散マットレスの選択をする取り組みを進めたことが褥瘡発生率の低下につながった。

参考文献

- 1) 一般社団法人日本褥瘡学会(2016).褥瘡ガイドブック-第2版 褥瘡予防・管理ガイドライン(第4版)準拠,照林社
- 2) 一般社団法人日本褥瘡学会(2016).ベストプラクティス 医療関連機器圧迫創傷の予防と管理,照林社